

農業界とスポーツ界との連携に関する勉強会
第3回 議事概要

日 時：令和7年11月25日（火） 14：00～16：00

場 所：農林水産省 第3特別会議室

出席委員：別紙のとおり

概 要：

冒頭、神田大臣官房審議官からの挨拶ののち、丹野委員からセカンドキャリアとしての就農の御経験について、柳井氏から資料1に基づいて福島ユナイテッドF Cの取組について、山中氏から資料2に基づいてゴールデンウルヴス福岡の取組について、川島委員から資料3に基づいてアスリートに農業が選ばれる上での課題について御説明いただき、委員等から御意見をいただいた。

（ヒアリング等での御説明内容）

＜丹野委員からの御説明＞

- 選手時代の関係者に農作物を販売するなど、選手時代のつながりが販路の確保や農作業の手伝いのつながりなどに活かしている。
- 国や県だけでなく、地域独自の農業への支援を行っている自治体もあるが、農業を始めようとするアスリートにこうした就農に当たっての補助金などの支援制度を知ってもらう機会があるとよい。自身の活動として、女性でも農業で活躍できることや、地元の名産品の知名度向上を目的として、地元の女性経営者の集まりを立ち上げ、保育園での体験・イベントや、女性生産者との情報交換の場の設けるなどの活動をしている。

＜福島ユナイテッドF Cの取組の御説明＞

- 農業部は、震災後、その風評被害を払拭すること、福島におけるクラブの存在価値を高めること、新たな収入源を確保することを目的として活動をスタートした。福島の魅（味）力を全国に発信するといった地域振興のため、地元農家と連携して農作業やマルシェ出店、EC販売などに取り組んでいる。
- 選手の農作業従事へのモチベーション維持やコミットしやすい環境づくりとして、例えば桃課長など役職を担っている。販路拡大という課題に対しては、全国のJリーグファン・サポーターに対して、Jリーグのネットワークを活用し、販路、PRの拡大を図っている。集客力の高いJ1の試合会場などでのマルシェ出店やECサイトを通して全国へ農作物の販売、PRを行っている。
- 引退後就農した元選手とのコラボレーションや、地域の農業高校などとの連携、ファン・サポーターとの収穫体験・調理体験・パブリックビューイングなどの実施によって、クラブを通じて農業への親しみを感じていただけるような取組を進めており、今後もクラブを通じて農業に親しみを感じていただけるよう続けていきたい。

＜ゴールデンウルヴス福岡の取組の御説明＞

- 競技のトップリーグに所属しつつ、日本の農業が抱える人手不足の課題に対応すべく、選手が日中に農作業をしながらデュアルキャリアを形成している。選手全員が地元の農家に弟子入りするなど農業をメインの活動として捉えているものの、農業単体では赤字の状

況。

- また、農福連携や子ども食堂の取組なども行っているが、高校生や大学生をはじめとした若者は、就職先としての農業に抵抗を持っている人が多いように感じる。当社では引退後に社内に残って農業を行っている元選手、独立して就農した元選手がおり、農業を楽しんでやっている。就農後の一定期間の収入面の不安を払拭できれば、農業の楽しさに気づいてもらえ、農業参入の活性化が見込まれるのではないかと。

＜川島委員からの御説明＞

- 大学生と話をしていると、アスリート／体育会学生に限らず、Z世代の特徴として、社会課題や食の問題への意識は高く、第一回勉強会での説明でも、20代の2人に1人が農業に興味ありとのこと、ゼミでの地域活動やマルシェ活動をやる生徒はいるが、就活の時に農業は選択肢に入らないのが現状。同時にZ世代の特徴として、失敗したくない／リスクをとりたがらない、というのがある。いきなり就農できるかとなると勇気がいるため、このあたりのハードル感をどう払拭するかが、農業が選ばれるようにするに当たっての課題ではないか。
- 加えてアスリートとなると、競技で培われた力、食に関する意識、ライフスタイル等の農業に対する適性が高いという点はあるのだが、自己理解が不足しており、多様な選択肢に触れる機会が少ないため、現役時代に身近で長く一緒にいた指導者を選択しがち。農業を選んでいただくためには、まず「よく分からない」不安を解消することが必要で、農業のリアルな働き方の情報に触れていただく、体験の機会を作ることが必要。合宿時の農業体験が適当ではないか。

（委員等からの主な意見）

- セカンドキャリアとして農業を選んでもらうためには、農業で収支が成り立つことが重要であり、国や地方自治体による助成金や支援を活用する必要がある。就農希望者が助成金制度等の情報収集を個人で行うことは難しいため、情報が網羅されて簡単に分かるようなシステムができると良い。
- 就農に際しては、農業で生活できるのかという点が最も不安視されている。企業等に就職する際には、公開されている給料情報から生活を想像できるが、就農に当たっては生活レベルを想像できず、そのブラックボックス化している部分を見える化することから取り組む必要がある。
- 就農に限らず新たなチャレンジは難しいところ、いかにメリットを感じていただけるか、という点が重要ではないか。農業による収入がどうなるかももちろん大事だが、生きがい・やりがいを感じてもらうこともポイントではないか。
- 農業のことをよく分からないという方を、よく知っているという状態にもっていく方策が必要。
- 就農に対する心理的、金銭的ハードルが高いとの点については、若いうちから農作業体験や子ども食堂等で、触れ合う機会を創出することが有効。初期投資や収入担保の面で金銭的なハードルがあるかと思うが、色々な形で補助制度があるので、その周知をしていく必

要がある。

- アスリートの思考は指導者の影響が大きいので、指導者も巻き込んで、農業に接点を持ちイメージを持っていただくことが農業を選択するきっかけになるのではないかな。
- 日本の社会課題の一つとしての農業の課題解決という切り口で、アスリートの持つ目標達成（勝利）に向けた能力、課題解決力を農業で生かすことができるといった農業への繋げ方ができるのではないかな。
- 現役中のスポーツへの熱意をセカンドキャリアにどう向けていくかが課題。現役時代から広い視野でキャリア形成に向けた意識をもってもらう必要がある。
- 農業参入後のモチベーション維持が、今回の説明いただいた事例に共通して重要なポイントであると感じた。身近な人が農業に取り組んでいるとイメージが湧くし、地域からの理解や賞賛がモチベーション維持につながる面もあり、地域の方との関係性を強固にして活動の後押しを受ければ、農業界に一步踏み出すことのできるアスリートが増えるのではないかな。
- スポーツ選手が農業に対して内在的に強くモチベーションを持てるようになるにはどうすればよいか、農業とスポーツが内在的にマッチングする要素はどういうところかといったことを分析する必要があるのではないかな。
- 農業界側の目線で考えると、スポーツは地域で強力なブランドとファンコミュニティを保有しており、ファン購買層の獲得やブランド化ができるのではないかな。また、スポーツも農業も地域密着型の産業であり、農業体験・収穫イベント等の開催は、地域活性化につながり消費に好影響を与える好循環が生まれる可能性があるのではないかな。
- スポーツチーム側の目線で考えると、食や農といった新たな切り口でファンやスポンサーとつながりが生まれ、事業多角化につながったり、キャリアの選択肢が広いことでよい人材の獲得につながる等の効果が考えられるのではないかな。
- スポーツ（チーム）にはファンがいるということが強みであり、その強みこそが農業と親和性のある点であり、スポーツ（チーム）が農業界に寄与できるという点になるのではないかな。そこを深掘していくことが重要。
- 農業がアスリート（スポーツ界）に対し魅力があるものか、という点も踏まえた議論が必要ではないかな。
- 様々なアスリート・チームの農業参入の事例を聞け、ある程度の概要は掴めたのではないかな。今後はこうした事例を構造的に捉えて、農業界、スポーツ界互いのメリットをもう少し具現化し、どうすれば型にできるのかということを議論していくべきではないかな。優良事例を一過性のものにならないよう、面に広げて構造的アプローチとなるよう構造的な対応策を事務局でも整理いただき、議論を次に進めていくべきではないかな。

（以上）

(別紙)

第3回農業界とスポーツ界との連携に関する勉強会 委員等一覧

【委員】

荒牧 太郎	カフリング東久留米所属 現役フットサル選手 ((一財) 日本フットサル連盟アスリート委員会 前委員長)
一政 幹人	宮崎県児湯郡都農町役場企画課 企画政策係 主査
岩田 和彦 (代理出席)	全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 次長
上野 馨太 (代理出席)	(株) ジャパン・ベースボール・マーケティング代表取締役社長
川島 隆一	川島事務所代表、GCDF-Japan キャリアカウンセラー
菊 幸一	国土舘大学 体育学部 特任教授
近藤 真弘	(特非) ESDGZ OTAKI 副理事長
酒井 大雅 (Web参加)	(株) NTT アグリテクノロジー 代表取締役社長
末松 広行	東京農業大学 教授 (元農林水産事務次官)
丹野 朝香 (Web参加)	元実業団ソフトボール選手
寺尾 恵一	(公社) 日本サーフィン連盟 理事長
村井 満	(公財) 日本バドミントン協会 代表理事 会長
渡邊 徳人	(株) サニーサイドアップグループ 代表取締役 (五十音順・敬称略)

【アドバイザー】

中田 英寿	(株) JAPAN CRAFT SAKE COMPANY 代表取締役
-------	------------------------------------

【プレゼンター】

柳井 香史朗	(株) AC 福島ユナイテッド 企画広報部マネージャー
山中 基	(株) ゴールデンウルヴス福岡 代表取締役社長 (五十音順・敬称略)

【農林水産省】

神田 宜宏	大臣官房審議官（兼経営局）
齊賀 大昌	経営局就農・女性課長
勝野 美江	大臣官房政策課政策情報分析官兼新事業・食品産業部外食・食文化課付
坪川 優斗	政策 Open Lab「アス→ノウ」プロジェクト代表

【スポーツ庁】

靱井 圭子	スポーツ庁審議官
廣田 美香	スポーツ庁参事官（地域振興担当）

【事務局】

農林水産省 経営局就農・女性課